

報告：TOEIC（R）IP 全学一斉実施にかかる アンケート調査結果

アンケート調査ワーキンググループ
外国語教育研究センター

1 アンケートの目的

広島大学においては、平成15年度よりカリキュラムや教育方法の改善を目指し、学生の英語力の把握、および、習熟度別クラス編成による個に応じた指導や成績評価への活用を目的として、全学部生を対象に TOEIC（R）IP テストを全学一斉に実施してきた。学生に受験を求める時期や実施回数については、表1のとおりである。

表1 広島大学における TOEIC（R）IP 全学一斉実施の経緯と今後

	在学中の 受験回数	1年次		2年次		3年次		4年次	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
平成15年度～ 平成19年度入学生	4回	5月	2月	—	2月	—	2月	—	—
平成20年度～ 平成23年度入学生	4回	5月	11月	5月	11月	—	—	—	—
平成24年度～ 平成25年度入学生	4回	5月	11月	—	11月	—	11月か5月		—
平成26年度入学生～	2回	5月	—	—	—	—	11月か5月		—

注：この表は4年制の場合であり、平成24年度入学生以降において6年制の学科等では4年次後期以降に実施する場合もある

導入してからの5年間にわたる「平成15年度～平成19年度入学生」に対しては、導入当初の目的に沿い、入学時と1・2・3年次終了時に受験を求め、英語力の変化を測定していた。ただし、学生にとっては2月の後期試験終了後に受験する TOEIC スコアが授業成績に反映されることもなく、受験するメリットが大きくなかった。そのため、当時の2・3年次終了時の受験率は低く、真摯に受験したとは言えないスコアも散見された。また、6年制の学科等においては、3年次終了時という時期は卒業時とも言えず、中途半端な時期であるということも指摘された。

その後の4年間にわたる「平成20年度～平成23年度入学生」に対しては、受験の意義を学生に対して明快にすること、教養教育の英語科目の充実を図ることを重視し、実施時期を変更した。すなわち、教養教育の英語科目の主たる履修時期である1・2年次の各学期の中間時点（期末試験を含む16週間の8～9週目）に実施し、成績評価にも活用することとした。学期ごとに同じ尺度に基づくスコアが得られるため、成績評価はもとより、授業評価アンケートと関連づけた点検にも活用することができた。

そして、その後の2年間にわたる「平成24年度～平成25年度入学生」に対しては、2年次前期の実施を間引いて、その代わりに3年次後期以降に実施することとなった。本学の第二期中期計

画に基づき卒業時の英語力を測定することが求められ、かつ、追加で3年次後期以降に実施するための資源がないことから、1・2年次の各学期のうちから1回の実施分を取りやめざるを得なかったためである。卒業時の英語力測定に関しては、学科等の単位ごとで3年次後期以降の3年次11月か4年次5月に受験するものと定めた。このことによって、6年制の学科等においても、卒業時の英語力の測定として、4年次以降の実施も指定できることとなった。

今後、平成26年度以降の入学生については、在学中の受験回数をさらに減じ、1年次5月と卒業時（3年次後期以降を学科等の単位が定める）の2回だけを実施することとなった。これは、テストの実施に必要な資源を他の本学グローバル化推進事業に投入するという判断がされたためである。

そこで、これまでの経緯を総括し、今後の全学一斉実施に対する展望をおこなうために、TOEIC (R) IP 全学一斉実施に関する学生の受け止め等の情意面、および TOEIC (R) IP 全学一斉実施が学生の英語学習に与える影響に関するアンケート調査を行うこととした。

2 調査内容

調査対象者は、平成25年度入学の学部1年次生（2,508名）とした。実施期間については、広島大学の学生向け総合窓口（ポータル・サイト）「広島大学 学生情報の森 もみじ」(<https://momiji.hiroshima-u.ac.jp/momiji-top/index.shtml>) に学生がアクセスを行うことが最も多いと見込まれる期末試験週間（平成25年7月22日から8月2日（約2週間））とした。なお、調査対象者である学部1年次生は、調査に先立ち、平成25年度第1回 TOEIC (R) IP 全学一斉実施（本試験、平成25年5月18日、追試験、平成25年6月1日）を受験している。

調査実施においては、「もみじ」上のアンケート機能を用いた。その際、回答は記名方式とし、成績評価等には関係が無い旨の記載を行った。

質問項目は、全学一斉実施を行うことによる英語学習への意欲向上（項目1）、英語学習等の勉強（項目2）、全学一斉実施という制度が無かった場合に個人的に自費で受験をすると思うかを問う項目（項目3）、そして、TOEIC スコアを上げるために学生が必要と感じる各知識・技能を問う項目（項目4から9）、および、自由記述（項目10）の10項目とした。このうち、項目1から9に関しては、「そう思う（4）」から「そう思わない（1）」の4件法で回答を求めた。

- 1：今回の TOEIC (R) IP 全学一斉実施があることで、英語学習への意欲が高まったと思いますか。
- 2：今回の TOEIC (R) IP 全学一斉実施に向けて、何らかの準備や勉強をしたと思いますか。
- 3：本学では、TOEIC (R) IP 全学一斉実施の制度があります。この制度がなかった場合、あなたは、自己の英語力チェックのために TOEIC (R) をはじめとする英語のテストを、自費で定期的に申し込み、受験すると思いますか。
- 4：今後、より TOEIC (R) スコアを上げるために、「語彙」が重要であると思いますか。
- 5：今後、より TOEIC (R) スコアを上げるために、「文法」が重要であると思いますか。
- 6：今後、より TOEIC (R) スコアを上げるために、「リスニング」が重要であると思いますか。
- 7：今後、より TOEIC (R) スコアを上げるために、「スピーキング」が重要であると思いますか。
- 8：今後、より TOEIC (R) スコアを上げるために、「リーディング」が重要であると思いま

すか。

9：今後、より TOEIC (R) スコアを上げるために、「ライティング」が重要であると思いませんか。

10：【自由記述】 TOEIC (R) IP 全学一斉実施についてのコメントがあれば、自由に書いてください

3 結果

総回答数は、878件（回答率35.0%）となった。各項目（項目1から9）に関する結果は、以下の表2のとおりとなった。

表2 TOEIC (R) IP 全学一斉実施にかかるアンケート調査に関する各項目における平均と件数および割合

	そう思う(4)	ややそう思う(3)	あまりそう思わない(2)	そう思わない(1)	平均
項目1 英語学習への意欲が高まったと思いませんか	318 (36.2%)	359 (40.9%)	149 (17.0%)	52 (5.9%)	3.07
項目2 何らかの準備や勉強をしたと思いませんか	173 (19.7%)	235 (26.8%)	261 (29.7%)	209 (23.8%)	2.42
項目3 自費で定期的に申し込み、受験すると思いませんか	143 (16.3%)	188 (21.4%)	305 (34.7%)	242 (27.6%)	2.26
項目4 「語彙」が重要であると思いませんか	625 (71.2%)	208 (23.7%)	33 (3.8%)	12 (1.4%)	3.65
項目5 「文法」が重要であると思いませんか	482 (54.9%)	300 (34.2%)	79 (9.0%)	17 (1.9%)	3.42
項目6 「リスニング」が重要であると思いませんか	745 (84.9%)	114 (13.0%)	14 (1.6%)	5 (0.6%)	3.82
項目7 「スピーキング」が重要であると思いませんか	304 (34.6%)	280 (31.9%)	236 (26.9%)	58 (6.6%)	2.95
項目8 「リーディング」が重要であると思いませんか	687 (78.2%)	165 (18.8%)	20 (2.3%)	6 (0.7%)	3.75
項目9 「ライティング」が重要であると思いませんか	326 (37.1%)	283 (32.2%)	221 (25.2%)	48 (5.5%)	3.01

この結果、TOEIC (R) IP 全学一斉実施があることで学生の多く（77.1%）が、英語学習への意欲が高まったと肯定的に感じていることが分かった（項目1、平均3.07）。一方で、TOEIC (R) IP 全学一斉実施に向けて、準備や勉強をしたかという項目（項目2）に関しては、回答が分かれており（肯定46.5%、否定53.5%、平均2.42）、今後、授業等において学生への声かけ等が必要であることが示唆される。また、項目3から、TOEIC (R) IP 全学一斉実施の制度がなかった場合、学生は自己の英語力チェックのために TOEIC テストをはじめとする英語のテストを、自費で定期的に申し込み、受験するとはあまり思っていないことが分かる（否定62.3%、平均2.26）。

そして、TOEIC スコアを上げるために学生が必要と感じる各知識・技能を問う項目（項目4

この図および自由記述より、以下の点が指摘される。

- 全学一斉実施は、各自の英語の勉強の目標となり、強制的また定期的に受験をすることで個人の英語力を見直し、また、その後の維持や向上を測るのによい機会となっている。
- 全学一斉実施の実施頻度に関しては、学生により意見が分かれている。中途半端であると指摘する学生や1年に1回くらいが丁度良いという学生、または、受験する機会をもっと増やして欲しいと思う学生が見られる。
- 個人で自発的に自費で受験しようとは思っておらず、全学一斉実施がその点において助かっていると感じている。

3 まとめ

今回の TOEIC (R) IP 全学一斉実施に関するアンケート調査により、学生の全学一斉実施に対する学生の受け止め等の情意面、および TOEIC (R) IP 全学一斉実施が学生の英語学習に与える影響を示した。今後は、これらの資料を用いて、より学生の英語力の向上につながるカリキュラムや教育方法の改善を目指すこととする。

10：【自由記述】 TOEIC (R) IP 全学一斉実施についてのコメントがあれば、自由に書いてください

回答番号	回 答
1	ただただ打ちのめされました。もう少し励もうと感じました。1年に1回くらいが丁度いいかなと思います。
9	TOEIC の全学一斉実施は自分の英語力向上をはかるのにとってもいいことだと思う。なんといっても無料で受けれるのがいい。
13	一斉実施に向けて、目標をもって勉強することが出来て良かったと思いました。
15	TOEIC が定期的にあるとその時々で自分の英語力をはかることができるのでとても役立ちます。これからも真剣に取り組んでいきたいです。
17	なお、試験そのものは英語の力を維持するために必要だと感じる。
19	全員を無料で受けさせるよりも希望者だけを無料で受けさせるようにしてほしい。
20	TOEIC を全学一斉で受けることはとてもいい取り組みだと思います。ただ、テストを受けることに対する取り組みは個人差があると思います。せっかく受ける機会があるので、多くの学生が4年間を通して英語力の向上が見込めるといいと思います。TOEIC テストでのスコアアップにつながるような取り組みを授業で取り入れて欲しいなと思います。
21	自分で個人的に TOEIC を受けようとはあまり思わないので、学校で一斉実施をしてくれると助かります。今後も定期的に一斉実施を続けほしいです。
22	学校で行ってくださるので、申し込む手間や、慣れない受験地に行くこともなく受験できるので、助かります。
23	ぜひ強制的に受ける量を増やしてください。そうしないと英語の勉強をやらなくなってしまいます。
27	入学してから2回受けさせられたが、短期間で何回も受けても成績が伸びるわけではないので、2回目のテストはいらなかったと思う

31	ほとんどの人が受ける意味ないと思うので、希望者だけ受けるようにしたほうが良いと思います
34	実費で受けるとなると、なかなか受けようとは思わないので、全学一斉に行われるといいです。
35	受けた方がよいのは分かっているが、なかなか自分から申し込むのは気が引けるので、一斉に、強制的にやってもらったほうが楽だしいと思う。
36	是非、秋の TOEIC の全額一斉実施も行っていただきたいです。
37	入学後すぐの実施だった為自分の現在の英語力を見ることができてよかったと思う。結果をしっかり見つけなおして今後の学習につなげたいと思った。
38	学生の英語に対する意識を高めるのにとってもいい取り組みだと思う。
40	参加を任意にしてほしい
45	実施頻度が中途半端で減らすなら減らす、増やすならもっと増やしてほしい
48	全学一斉実施でテストが行われるため、申込みの手間が省けて良かったと思う。これからも実施してほしい。
49	もっと回数を増やしてほしい
53	全学で一斉に実施すれば、普段英語をあまり勉強しない人でもテストに向けて勉強すると思うのでテストの全学での一斉実施はすべきだと思う。
56	受験料を大学が一部または全額負担してくれるのはとても助かります。
57	こういった全学一斉実施がなければ、多分自分は受けてないだろう。これを受けることで自分の英語力がわかるし、英語を勉強するとき何が弱点なのかも分かるので、これからの英語学習に役立つと思った。
60	もっと受験する機会があればうれしいです。